

平成30年度 前期選抜の選抜・評価方法

学校番号 26

千葉県立船橋高等学校 全日制の課程 理数科

1 期待する生徒像

次のア～ウの要件を全て満たす者

ア 本校への志望動機及び理由が明確であること。

イ 本校の教育目標に向かって努力し、その成果が期待できる資質を有すること。

ウ 理数系分野への高い興味・関心を有すること。

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 面接	受検者5～6名・評価者2名の集団面接 検査時間：1グループ15～20分

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査 [600点満点]

評価項目	評価基準
5教科の得点合計	5教科の得点（国語・社会・英語は100点満点，数学・理科は100点満点の得点を1.5倍して，150点満点）の合計600点満点で評価する。

(2) 調査書 アの数値を調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値に0.5を乗じた数値で評価する。 各学年の必修教科の評定に1がある場合は，審議の対象とする。
イ 総合的な学習の時間の記録	問題となる記述がある場合は，審議の対象とする。
ウ 出欠の記録	3か年通算で欠席が30日以上ある場合は，審議の対象とする。 第3学年において欠席が10日以上ある場合は，審議の対象とする。
エ 部活動の記録	部活動で県大会を経て関東大会以上に出場した，または個人で県1位の成績をあげたと認められる記載がある場合は，総合的に判定する際の参考とする。
オ 特記事項	英検2級以上等の記載がある場合は，総合的に判定する際の参考とする。

カ 総合所見	特に問題となる記述がある場合は、審議の対象とする。
--------	---------------------------

(3) 面接 [10点満点]

2名の評価者が、評価項目に従って、A（優れている）・B（問題がある）の2段階で評価する。Aを10点、Bを2点とし、得点化する。評価がBの場合、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志望動機	志望動機及び理由が明確である。
イ 意欲	本校の教育目標に向かって努力し、その成果が期待できる資質を有する。
ウ 興味・関心	理数系分野への高い興味や関心を有する。
エ 態度	面接に臨む態度や、質問に対する応答が適切である。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

「学力検査の成績」、「調査書の得点」、「第2日の検査（面接）の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、各選抜資料の評価等について慎重に審議しながら、予定人員までを入学許可候補者として内定する。

<総得点の満点の内訳>

学力検査 の成績	調査書の得点	第2日の検査の得点	総得点
		面接	
600点	$((135 + \alpha - m) \times 0.5)$ 点	10点	$(677.5 + 0.5\alpha - 0.5m)$ 点

(算式1) α : 県が定める評定合計の標準値95

m : 当該志願者の在籍する中学校の第3学年（義務教育学校にあっては、後期課程の第3学年）の評定の全学年の合計値の平均値

(2) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取り扱いはしない。

5 その他

過年度卒業者については、第2日検査終了後、別途個人面談を行う。